

別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	令和2年度第1回加東市子ども・子育て会議					
開催日時	令和2年8月20日(木) 午前10時00分から午前11時10分まで					
開催場所	加東市役所302会議室					
議長の氏名 (会長 名須川知子)						
出席及び欠席委員の氏名						
【出席委員】8人						
・名須川 知子　　・津田 雅世　　・松本 多美子(代理) ・福原 かをる　　・中村 佳文　　・森本 史子 ・堂下 哲子　　・谷 美沙紀						
【欠席委員】4人						
・吉川 賢司　　・井上 満　　・本山 早苗 ・平川 真也						
説明のため出席した者の職氏名						
なし						
出席した事務局職員の氏名及びその職名						
教育委員会						
こども未来部 こども未来部長 広西 英二 こども教育課長 壱井 初美 同副課長 稲岡 めぐみ 同係長 丸山 久美子 同主査 金高 将彦 同主事 坂本 亮太						
議題、会議結果、会議の経過及び資料名						
1 議題(議事)						
(1) 加東市子ども・子育て支援事業計画の総括について						
2 会議結果						
(1) について 資料に基づき審議しました。						

3 会議の経過

- ・開会（事務局）
- ・開会挨拶（名須川会長）
- ・資料確認

【議事（1）加東市子ども・子育て支援事業計画の総括について】

《事務局から資料①、②、③、加東市子ども・子育て支援事業計画総括状況シートに基づき説明》

（会長）

待機児童の状況について、人数はどうなっていますか。

（事務局）

待機児童が発生しましたのは平成30年度からです。平成30年4月につきましては3人、平成31年4月については1人で、令和2年4月では2人です。今年度については2人とも0歳児ということで、年齢が低いほど定員も少なくなっていますので、希望に応じきれていないという状況です。

（会長）

待機児童数はアピールとしては意外に大きいと思います。加東市が待機児童ゼロであれば、行政としても非常にいいと思うのでお聞きしたかったところです。3人から1人になったのはいいのですが、せっかく1人まで減ったのに、また増えて0歳児が2人ということですが、その0歳児2人については、今は家庭で保育されているということですか。

（事務局）

現在は家庭で保育されていますが、2人のうち1人については9月1日から入所可能となりましたので、来月の時点では1人になります。

（会長）

待機児童ゼロという大きな目標がありますが、定員を増やすというのは難しいですね。加東市の場合はマッチングが悪いという訳ではないのですか。

待機児童が起こった理由を説明願います。

（事務局）

先ほどの2人というのはマッチングの問題ではありません。希望する特定の園に入れないというようなお子様につきましては待機児童にカウントされませんので、それ以外ということになります。

（会長）

1人、2人であれば何とかしてほしいと思うのですが、事務局としては何か、考えがありますか。今後、待機児童が5人、6人となってきた場合の見通しみたいなものがありますか。

(事務局)

待機児童については、市の総合計画でもゼロを目指しているのですが、保育士の確保など難しいところがあります。加東みらいこども園で3号認定子どもの定員を増やしたのですが、保育士が不足するというところもありますので、定員までの受け入れがなかなか厳しいような状況になっています。

(委員)

養育支援訪問事業の対象の方とはどのようにピックアップしているのですか。

(事務局)

担当課の福祉総務課には家庭児童相談員等が配置されており、ご相談やご家庭を訪問する中で、支援が必要かを判断し、必要なサービスを提供しております。

(委員)

担当課が違うからわからないかもしれません、健診等でピックアップした人ではなく、相談に来られた人を対象にしているということですか。

(事務局)

保護者の方の家庭での養育の状況等を総合的に検討し、ヘルパーの行う業務内容であるとか時間とかを調整して実施している状況です。

(委員)

乳児全戸訪問事業というのがありますが、実績の302名というのは出生数と考えているのですか、それとも訪問できていない数があるのですか。

(事務局)

健康課が実施しており、出生数については把握していませんが、実績の減少の要因の一つとしては、新型コロナウイルス感染症の関係で、訪問できていないことも考えられます。

(委員)

待機児童の件で、特定の園を希望されて入園を待たれている方はどれくらいおられるのですか。

(事務局)

資料を持ち合わせていないため詳細な数字はお答えできませんが、30人前後が特定の園を希望して入園を待たれています。ただ、その方々に関しては求職中や入園できれば仕事を探しますというような方が多いというように記憶しています。

(事務局)

ご質問の人数の詳細については、後日、文書で回答します。

(会長)

幼児教育・保育の無償化の影響で入園を希望する人が増えていますが、やはり教育・保育を必要とされる方のニーズには応えていただきたいと思います。

(委員)

友達で兄弟とも保育園には入れたけれど、違う保育園に通園する方が2人いて、送迎

だけでも結構時間がかかると聞いています。兄弟が異なる施設に通園するケースは多いのですか。

(事務局)

2、3年前からそういうケースが出ています。昨年度は10組程度あったと思います。保護者に確認のうえ、兄弟別々となることを了解いただき、入園していただいている。なお、翌年度に兄弟が同じ園への入園を再度希望される場合には、ほぼ解消できており、2年連続して兄弟が異なる園となる事例は少ないという状況です。

(委員)

主任児童委員として4か月までの乳児を健康課の保健師と一緒に訪問しています。コロナの関係で、やっと6月から訪問しています。

その際に、加東市の子育て支援の場所、病院の場所、緊急の場合にはどういう風に病院に連絡するかなどを伝えています。また、保育所、認定こども園、幼稚園のことが気になると言われますので、情報提供を行います。

お母さんは孤立化しがちで、訪問して話していると、初めはすごく緊張されて不安でいっぱいな表情が、最後にはだんだんとこやかに笑ったりされるので、ほっとして帰ってくるような状態です。

今回、いろいろな資料を見て市の各部署がそれぞれの事業において努力されていることがとてもよく分かります。これからも各部署の連携が子どもにとってはとても大事になってきます。自分の部署だけでも大変だと思いますが、とにかく子どもたちが一人でも多く入園できるようにしていただけたら嬉しいなと思います。

(会長)

本当に地道に、一人ひとりに関わっていただいていて、逆に言えばそれが加東市の強みじゃないかと思います。都会ではなかなかできないことです。やはり、この規模だから目が届くし、来てくださる方もいるということだと思います。子育て世代が子育てしやすいと思えばこちらに引っ越しされることも考えられます。それが定住につながれば加東市の人口も増えて非常にいい事だと思います。それから今、コロナのこういう状況の中で、都会を離れようと思っている方も結構います。程よい田舎、1時間くらいで都会に行けるような場所で、かつ自然があって、子育て・教育できめ細かい行政の力が及んでいるというところで選ぶとしたら、私はすぐに加東市だなと思うのです。これからコロナで大変な時ですけれど、逆に言えばチャンスだと思います。子育て支援ルーム「かとう GENki」を利用される方で、子どもは一人でいいと思っているお母さんが、他の兄弟を育てていらっしゃるお母さんや子どもたち同士の様子を見たりして、やっぱりもう一人ほしいという方もいらっしゃいます。加東市は出生率1.68で、県の平均は1.42、国は1.80を目指していますが、もっと低い状況です。本当に県内でも子育てのしやすい「まち」としてアピールしているので、ぜひこども教育課に頑張っていただきたい。

(委員)

連合婦人会という団体に入っています。毎年、子どもたちと三世代交流事業を行っていますが、今年はコロナの関係で人数制限を行い、競技自体も囲碁ボーラーと輪投げにして、子どもたちに楽しんでもらおうと準備していますが、参加する子どもたちが少なくなっています。子どもたちは、土曜日、日曜日も塾・サークル・スポーツと予定があり、事業の実施が難しい状況です。

(会長)

広報はどのようにされているのですか。

(委員)

婦人会が、子どもさんがいるお家に行って、お誘いしています。

(会長)

子どもたちが忙しいということですね。また違った形での実施、親子の支援ということで子育てフェスタとして小さい子どもを対象にしていますが、兄弟も一緒に参加、合同で実施、市と一緒に実施など、連携して実施することも検討してはと考えます。お兄ちゃんお姉ちゃんたちのコーナーを設けることも考えられます。

(委員)

ステラパークで実施した時は、学校のPTA・いざみ会や婦人会にお手伝いしていただきました。今年は9月にスポーツ大会を予定していますが、今後の状況によりどうなるかわかりませんが…。

(委員)

乳幼児健診のことですが、乳幼児の後期の健診の際に10か月は小児科医がいない相談になっています。全国の7割強は小児科医の参加する乳幼児後期健診となっていますが、加東市の健診では、小児科医の診察が4か月から1歳半までありません。現在は、保健師がきちんと対応されているとは思いますが、医師の目で確認することも大事です。できれば後期健診にも医師を配置すべきと考えます。加東市には小児科医が少ないので難しいということも重々承知していますが、今後の目標として、“子育てのしやすいまち”を掲げるためにはそういう事も検討していただきたい。東京では1か月、4か月、6か月、10か月と細かく実施しています。

(委員)

本日は代理出席ですが、本当にたくさんの子育て支援事業をしていることに驚きました。先ほど委員から子育て支援の情報についてお話をありがとうございましたが、社会福祉協議会では「加東まちの子育てひろば情報」という情報誌を2か月に1回発刊しています。主に加東市内の保育所・認定こども園の園庭開放の情報や子育てに役立つ情報を職員がピックアップして掲載しています。今後も認定こども園等と連携しながら、特に園に通園されていない小さなお子さんのいるご家庭の方に情報が届くように努めていきたいと思っています。

それから、総括状況調査シートの30ページの57番で、下から3つ目の奨学金給付という事業があり、その中に「経済的理由等により高等学校への就学が困難な生徒に対して一定額の奨学金を支給する事業」は該当者なしとありますが、社会福祉協議会でも生活福祉資金という貸付制度があり、その中で教育支援資金の貸付があります。昨年度も高校生への貸付実績があります。また、生活困窮世帯への相談業務の中で教育支援資金の相談もありますので、その辺をもう少し情報提供・共有して、お互いに相談支援に役立てられたらと思いました。

(会長)

貴重なご提案ありがとうございました。やっぱり情報共有は、大事なことです。

(委員)

加東市商工会は、町の商工事業者の集まりで、女性部は100名余りですが、各商店、事業所の女性が集まり、加東市のために何ができるだろうかと相談して活動しています。また、毎週土曜日に社福祉センターで「こども食堂」のお手伝いをしており、小学生、中学生20~30人に夕食を提供し、その後、兵庫教育大学の学生たちが勉強や遊びをサポートしてくれています。市内にあと2か所くらい「こども食堂」が増えると聞いています。一食ですが、子どもたちに食事を提供することで、健康面からも子どもたち

を見守っていきたいと思いながら活動しています。今現在はコロナの影響で活動が制約されていますが、できるだけ私たちもサポートしていきたいと思っています。

(会長)

ありがとうございます。それぞれの立場でできることは限られていますが、加東市の子どもたちを見守る大人たちという繋がりが大切です。この状況下でもあり、子どもたちに対する直接的な言葉はかけられないかもしれません、それぞれの立場からの子育て支援がよくわかる皆さんのお話をいただきました。ありがとうございます。

(委員)

待機児童の話になりますが、待機児童を解消するためには保育士の確保が必要というお話がありました。8月2日に加東市の就職フェアが開催されまして、保育士を希望する方、調理員を希望する方に、加東市内にこんな園がありますよという紹介をしました。32名くらい参加いただきました。当初は10名も参加するかなという事でしたが32名に参加していただき、各園が施設のいいところをアピールして、興味を持ってもらい、就職に繋げたいという取り組みです。保育士の採用にまで繋がれば待機児童ゼロになるかもしれません。そのような活動も今年から始めていますが、成果が出るのは今後になります。

(会長)

そのような活動は大切なことだと思います。兵庫教育大学の学生も何人か保育士を希望していますが、なかなか難しいようです。加東市が好きだという学生、他市にいてもここで仕事をしたいという学生もいますので、そういう取組で繋がっていかなければと思います。

加東市は行政が隅々まで行き渡るにはよい規模であり、人口の割には子育て支援ルームや認定こども園の数が多く、また、幼保一体化がかなり早く進んでいます。研修も多く実施し、幼保一体化に向けて認定こども園を整備して、公立園の統合に合わせて移行するなど、非常に理想的であると専門の立場から思っています。

国は結局、幼稚園と保育所と認定こども園に分けましたが、最終的にその3つの教育・保育要領を比べると、中身はほとんど一緒です。幼稚園には幼稚園教育要領、保育所には保育指針、認定こども園には教育・保育要領と3種類あるのですが、文部科学省、厚生労働省、内閣府と分かれています。こんなにバラバラなのは我が国だけで、世界的には一体化しています。

わが国が3つになっているのは政治的な問題で、理念的には幼稚園教諭や保育教諭とか言わずに『保育者』ということで良いのではないかと考えます。教えている内容は1つであり、国が目指しているのは認定こども園という形で、乳児も幼児も学校に行くまでの子どもは0歳から5歳まで適切に教育・保育できる保育者を作ろうとしています。加東市では特に法人の保育所が早期に認定こども園化し、中身的なレベルが非常に高く、保育の質が高い。質が保証されて、認定こども園にシフトされたことを評価しています。問題はこれをアピールするという事で、私は兵庫県にアピールしています。それも含めて、上手く活用することは加東市の仕事と考えます。0歳から、高齢者大学を含めれば100歳までの教育的なところ、兵庫教育大学、教育、医療、病児病後児保育施設など徐々に充実していますので、そういう所をアピールするのが大事で、全国的には無理でも、特に県内では言ってほしいというのが加東市にいる人間としての強い希望もあります。こういう仕事をしている私の立場から、感想を含めてエールを送りたいと思います。

委員の皆様も貴重なご意見をありがとうございました。非常に有効な時間でした。

《議事終了》

・事務連絡

- 子育てフォーラムの開催について
- 委員報酬について
- 閉会挨拶（こども未来部長）
- 閉会

4 配布資料

- 加東市子ども・子育て支援事業計画総括状況調査シート
- 令和元年度子ども・子育て支援事業計画の進捗情況(教育・保育事業)…資料①
- 令和元年度子ども・子育て支援事業計画の進捗情況(地域子ども・子育て支援事業)
…資料②
- 第1期加東市子ども・子育て支援事業計画の実績値…資料③

令和2年10月13日

会長 石須川知子

